

編集復刻版

# 仏教 植民地布教史 資料集成

〔朝鮮編〕全7巻

【編集復刻版概要】

- 巻数 全7巻
- 体裁 A5判・上製・総約3、880頁
- 編・解題 中西直樹(龍谷大学文学部教授) ※解題は各巻の巻頭に収録
- 刊行 第1回配本 2013年6月
- 【第1巻〜第3巻】 ●本体揃価格 75,000円+税 ISBN978-4-906943-10-4 第2回配本 2013年12月
- 【第4巻〜第7巻】 ●本体揃価格 100,000円+税 ISBN978-4-906943-14-2
- 揃価格 全7巻 ●本体揃価格 175,000円+税
- 推薦 坂口満宏(京都女子大学教授) 柴田幹夫(新潟大学国際センター)
- 全巻構成(収録全容は7頁をご参照ください)
  - 第1巻 日本仏教の布教概要
  - 第2巻 統監府・総督府年次刊行物(1)
  - 第3巻 統監府・総督府年次刊行物(2)
  - 第4巻 三・一独立運動後の総督府と仏教界
  - 第5巻 真宗大谷派の布教動向
  - 第6巻 日蓮宗の布教動向
  - 第7巻 諸宗派の布教動向(曹洞宗・浄土宗・本願寺派・真言宗)

本資料の対象領域

- ◎近代宗教史研究 ◎アジア移民史研究
- ◎近代朝鮮史研究 ◎植民地社会事業史研究
- ◎近代植民地研究 ◎「仏教と戦争責任」研究

# 仏教 植民地布教史 資料集成

編集復刻版

朝鮮編 全7巻

体裁 A5判・上製・総約3、880頁

編・解題 中西直樹(龍谷大学文学部教授)

【第1巻〜第3巻】 本体揃価格 75,000円+税

【第4巻〜第7巻】 本体揃価格 100,000円+税

揃定価—【全7巻】175,000円+税

近代以降、日本仏教各派は、衰微したアジア仏教の復興を目指し、現地に開教使(師)を派遣した。開教使(師)たちも、仏教復興によってアジアの振興に貢献するという使命感に燃えて、布教活動に従事したに違いない。

しかし、彼らの実際の活動は、現地を日本の従属化におく植民地政策の一端を担うものであり、現地の宣撫工作のため、日本政府や軍部に利用・動員され、彼らも率先してこれに協力してきたのである。こうして、日本の敗戦後、その布教活動は途絶し、実態の検証や布教の再開もされぬまま、関係資料は散佚しつつある。本書は、朝鮮における日本仏教の布教の記録を集めたものであり、引き続き、台湾、中国、北方・南洋の資料の復刻を予定している。

◎本資料集成は『仏教海外開教史資料集成』ハワイ編・北米編・南米編の続編として刊行しました。



三人社

関連図書のご案内

## 佛陀

全1巻

- 【概要】
- 収録内容 第1巻第1号(通巻第1号)〜第7巻第5号(通巻第69号)
  - 体裁 A4判・2面付け・上製・函入・総約525頁(原本総約1、100頁)
  - 解説・総目次・索引付き(第1巻巻頭に付す)
  - 解説 菊池正治(久留米大学文学部教授)
  - 推薦 赤松徹真(龍谷大学学長) 長谷川匡俊(淑徳大学理事長)
  - 原本提供 菊池正治氏
  - 刊行 2013年6月
  - 定価 本体25,000円+税 ISBN978-4-906943-19-7

中西直樹編・解題の「姉妹」関連図書

- 仏教海外開教史資料集成 ハワイ編 全6巻
- 仏教海外開教史資料集成 北米編 全6巻
- 仏教海外開教史資料集成 南米編 全3巻

★右三点の資料は不二出版から刊行されています。

三人社

〒606-8316 京都市左京区吉田2本松町4 白亜荘  
電話 075-762-0368  
FAX 075-762-0369  
振替 00960-1-282564

※図書館様・書店様へ  
小社は少数出版のため取次口座はございません。ご注文は直接上記までお申し込みください。

●表示はすべて税別



# 「合せ鏡」にして浮びあがる日本仏教の自画像

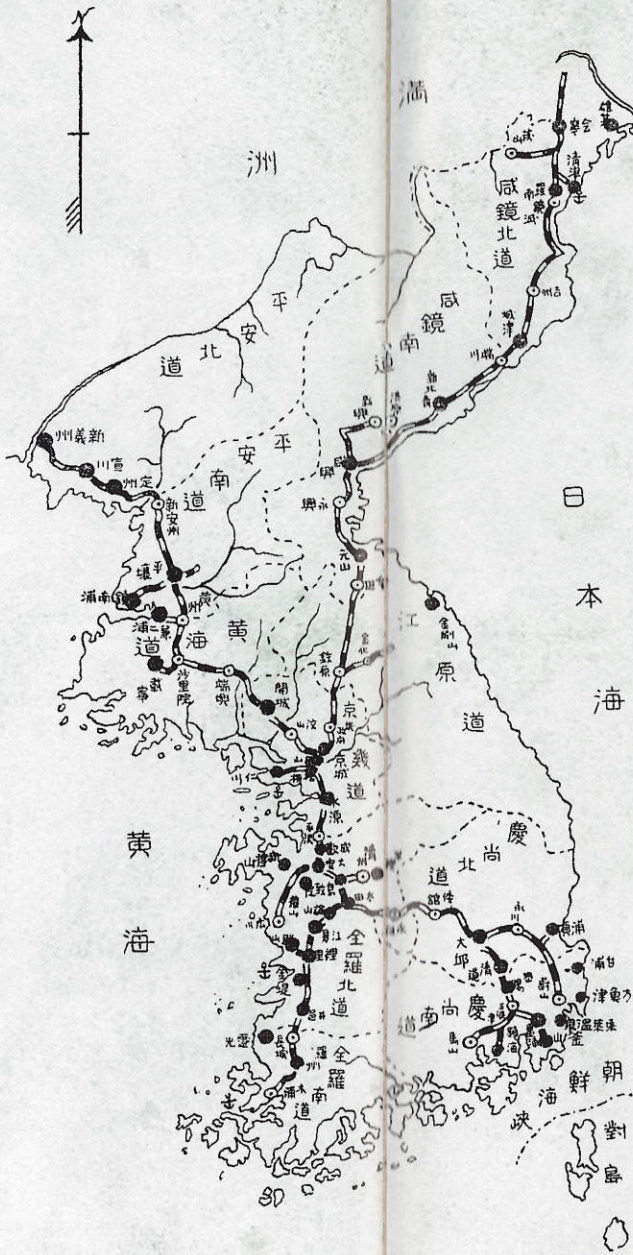
坂口満宏（京都女子大学教授）

これまでも編者の中西直樹さんは、ハワイ・北米・南米を対象に、十五巻にもおよぶ『仏教海外開教史料集成』をまとめてこられた。同資料を通してアメリカ方面での開教事業にいとんだ各宗派の寺院がいかんして日本人移民社会でその精神的な結びつきの拠点となったのかということを知ることができた。そして日本仏教の寺院は移民の「同化」を妨げる存在だという批判が台頭すると、日本仏教はアメリカ社会のあり方とは対立しないと主張し、布教方法や信者組織のあり様においてもアメリカ社会に順応したものへと改編していく事例を多数教えてくれた。資料が豊富で、視野も広く、行き届いていたからだ。

今度は一転してアジアが対象となっている。知りたいことは山のようにある。台湾や朝鮮が日本の植民地（外地）だった時代、日本仏教（当時の用語でいえば内地仏教）の各宗派は、アジア各地でどのような布教活動を展開していたのだろう。内地仏教は現地の人びとの「同化」や「皇民化」の一翼を担う勢力だったと評価されることがあるが、実際、どのようにして日本政府や軍部に動員され利用されていたのか。そもそも日本の植民地にはどれほどの仏教各派が進出し、教勢を伸ばしていたのか。今回編集された「朝鮮編」には、こうした根本的な疑問に応答する基礎的データが満ち溢れている。

アメリカに渡った日本仏教を映す鏡と朝鮮に渡ったそれを映す鏡、この二つを合せたとき、一体どのような像が浮びあがるのか、楽しみである。広くお薦めしたい。

## 朝鮮教勢要圖



## アジア布教の実態究明のために

柴田幹夫（新潟大学国際センター）

以前「大谷光瑞と大連」という論文を書いていた時、大阪堺の醤油メーカーが大連に渡り、醤油を現地生産して当地の在留邦人に大いに喜ばれたというのを知った。また本派本願寺が大連に関東別院を建立しようとした時に、当時の門主大谷光瑞は設計を東大教授伊東忠太に依頼したが、彼の奇抜なアイデアは結局採用されず、日本風の建物になってしまったという。この二つのことは何を意味するのであろうか。日本人は仏教を日本風に咀嚼し展開してきたので、遠く異郷の地にあって日本仏教の想いを想っていることに他ならないのではないだろうか。日本仏教の海外布教はまさにこの想いを受け継いでいる。つまり在留邦人を追って仏教が海外に展開しているということだろう。日本にいる場合と同じように法事や葬式を日本人相手に行うと言うことである。ただこのような状態の中でも、仏教を当地の人に弘めようとした布教使などもいたことを忘れてはならない。例えば台湾においては「布教使は酷暑鏢金の下瘴煙毒雨を犯し或は疫癘と戦い或は嶮難を凌ぎ法幢を南城に立てて大法宣布の為に努力精進し……」（『真宗本派本願寺台湾開教史』1935年）とあるようにまさに命がけで布教に従事したことがわかる。アジア諸地域における布教の実態には二面性があることを認めなくてはならないであろう。布教か追教か、簡単に二者択一というわけではないが、いろいろな形があったことは認めざるを得ないであろう。今後は布教使個人のことも研究の対象に組み込んでいく必要があるだろう。いずれにせよ本書『仏教植民地布教史料集成』のアジア布教シリーズを推薦する所以は多くの選択肢を準備しているからである。

## 朝鮮佛教大會記要

### 目次

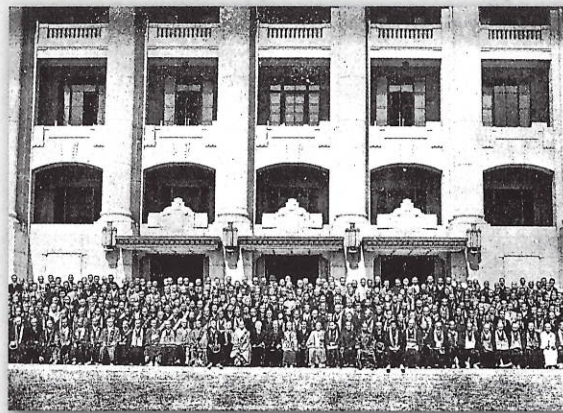
- 其一 準備記事
  - 主催團體の交渉
  - 第一回準備委員
  - 朝鮮佛教大會要項
  - 第二回準備委員
  - 朝鮮佛教大會準備委員規程
  - 準備委員事務分擔氏名
  - 第一回部長會議
  - 朝鮮佛教大會題旨
  - 第二回部長會議
  - 第一回總務部會

### 其二 本會記事

- 事務打合せ
- 朝鮮佛教大會
  - 一 商議會
  - 口 佛敎大會
  - 齋戒朝鮮僧侶祝辭
  - 小橋文部大臣祝辭
  - 渡邊京畿道知事祝辭
  - 日獨文化協會主事祝辭
  - 中國佛教會代表祝詞
  - 日本佛教聯合會賀詞
  - 松井京城府尹祝辭
  - 祝電
  - 見玉政務總監の所感
  - 議事
  - 決議文
  - 意見發表
- 仁山法師
- 朝日義
- 陳震
- 福井正

### 其三 補遺記事

- 圓瑛法師の風懷
- 中國佛教會密開會
- 大會出席招待者並内地參加者氏名
- 大會參加者氏名
- 大會、法要關係擔任
- 大會經費收支決算概要
- 大會賛助書會
- 前後の批判
  - 朝鮮佛教大會への希望
  - 朝鮮佛教大會を前にして
  - 朝鮮佛教大會私言
  - 朝鮮佛教大會の意義
  - 推尾辨匠
  - 朝鮮佛教
  - 河村道器
  - 朝鮮佛教









# 韓國開教論

加藤文教述

## 緒論

膨脹的先進國の名譽を荷ひたる我帝國は臣民として世界佛教の中心点たる我帝國佛教徒として隣邦たる韓國に布教するの必要の一般識者の是認する所にして我帝國佛教の傳源を探れば欽明天皇の十三年に今の韓國ある聖明王善隣國寶の義心より佛教の高徳を表彰し我佛教を隨伴し幾多れ文物美術より技藝建築にの文明を裨益せしめたるもの青史を微して明古佛教國たる韓國佛教が孤城落日の悲境に陥れんとする危急秋ふ當り我帝國佛教徒が

## 大谷派本願寺釜山別院沿革

### 一、朝鮮開教の濫觴

我が大谷派本山が、朝鮮開教の事に従つたのは、遠く天正年間に屬し、實に本願寺第十二代法主教如上人の時代である、傳へ言ふ、天正年間美濃國に奥村掃部介と云ふ者あり、織田信長の家臣であつたが、信長が京都本能寺で明智光秀のために亡ぼされてから、世は幾もなく豊臣太閤の天下となつたが、昔氣質の掃部介は二君に仕へるを快しとせず、若黨どもを引き具して泉州へ移り、陶器村に住まつてゐたのであつた。

時は丁度天正十年の正月元日掃部介は不思議な靈夢を見た、その夢といふのは弘法大師の阿彌陀如來が掃部介の前にあらはれて「そもく東本願寺の當主教如上人は、世にも珍らしき一代の善知識にましますぞ、汝速かにその弟子となり、朝鮮國に渡りて彼の國の迷惑せる有縁の衆生を救ひとらせよ」と告げて阿彌陀如來の御姿はかき消すが如くに見へすなつた、しかもその夢といふのがたゞ一度のみでない、二日の夜も引きつゞいて七日まで

## 全巻構成と収録内容

巻数	資料名	発行者または作成者	発行年
<b>(第1巻) 日本仏教の布教概要</b>			
01	『対韓仏教』	佐藤隆豊著	1895年
02	『風俗仏教朝鮮対論』	加藤文教著	1895年
03	『韓国開教論』	加藤文教著(抄録)	1900年
04	『朝鮮の宗教』	鶴谷誠隆著(抄録)	1908年
05	『朝鮮宗教史』	青柳南冥著(抄録)	1911年
06	『京仁通覧』	福崎毅一編(抄録)	1912年
07	『李朝仏教』	高橋享著(抄録)	1929年
08	『仏教と朝鮮文化』	金海鎮著(抄録)	1958年
<b>(第2巻) 統監府・総督府年次刊行物(1)</b>			
01	『統監府法規提要』	統監府(抄録)	1910年
02	『第2次統監府統計年報』	統監府(抄録)	1909年
03	『第3次統監府統計年報』	統監府(抄録)	1910年
04	『第4次朝鮮総督府統計年報』	朝鮮総督府(抄録)	1911年
05	『第2版最近朝鮮事情要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1912年
06	『大正4年最近朝鮮事情要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1915年
07	『大正6年最近朝鮮事情要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1917年
08	『大正7年最近朝鮮事情要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1918年
09	『大正8年最近朝鮮事情要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1919年
10	『大正9年最近朝鮮事情要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1920年
11	『大正10年最近朝鮮事情要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1921年
12	『大正11年最近朝鮮事情要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1922年
13	『大正12年朝鮮要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1922年
14	『大正13年朝鮮要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1924年
15	『大正14年朝鮮要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1925年
16	『大正15年朝鮮要覧』	朝鮮総督府編纂(抄録)	1926年
17	『朝鮮ニ於ケル宗教及享祀一覽』	朝鮮総督府学務局宗教課	1926年
18	『朝鮮ニ於ケル宗教及享祀一覽 昭和元年12月末調』	朝鮮総督府学務局宗教課(抄録)	1928年
18附	制定時「布教規則」	(大正4年8月16日公布)	
19	『朝鮮ニ於ケル宗教及享祀一覽 昭和2年12月末調』	朝鮮総督府学務局宗教課(抄録)	1929年
20	『朝鮮ニ於ケル宗教及享祀一覽 昭和3年12月末調』	朝鮮総督府学務局宗教課(抄録)	1930年
21	『朝鮮に於ける宗教及享祀一覽 昭和4年12月末調』	朝鮮総督府学務局宗教課(抄録)	1931年
22	『朝鮮に於ける宗教及享祀一覽 昭和5年12月末調』	朝鮮総督府学務局宗教課(抄録)	1932年
23	『朝鮮に於ける宗教及享祀一覽 昭和6年12月末調』	朝鮮総督府学務局社会課(抄録)	1933年
<b>(第3巻) 統監府・総督府年次刊行物(2)</b>			
01	『朝鮮に於ける宗教及享祀一覽 昭和7年12月末調』	朝鮮総督府学務局社会課(抄録)	1934年
02	『朝鮮に於ける宗教及享祀一覽 昭和8年12月末調』	朝鮮総督府学務局社会課(抄録)	1935年
03	『朝鮮に於ける宗教及享祀一覽 昭和9年12月末調』	朝鮮総督府学務局社会課(抄録)	1936年
04	『朝鮮に於ける宗教及享祀一覽 昭和10年12月末調』	朝鮮総督府学務局社会教育課(抄録)	1937年
05	『朝鮮に於ける宗教及享祀一覽 昭和11年12月末調』	朝鮮総督府学務局社会教育課(抄録)	1938年
06	『朝鮮に於ける宗教及享祀一覽 昭和12年12月末現在調』	朝鮮総督府学務局社会教育課(抄録)	1939年
07	『朝鮮に於ける宗教及享祀要覧 昭和13年12月末現在調』	朝鮮総督府学務局社会教育課(抄録)	1939年
08	『朝鮮に於ける宗教及享祀要覧 昭和14年12月末調』	朝鮮総督府学務局社会教育課(抄録)	1940年
09	『朝鮮の宗教及享祀要覧 昭和15年12月末調』	朝鮮総督府学務局社会教育課(抄録)	1941年
10	『朝鮮の宗教及享祀要覧 昭和16年12月末調』	朝鮮総督府学務局鍊成課	1942年

巻数	資料名	発行者または作成者	発行年
<b>(第4巻) 3・1独立運動後の総督府と仏教界</b>			
01	『朝鮮民族運動ニ対スル対策案』	(国立国会図書館憲政資料室所蔵「斎藤實関係文書」)	1920年
02	『朝鮮』第77号(社会教化事業号)	朝鮮総督府(抄録)	1921年
03	『朝鮮文化の研究』	横井誠應編 仏教朝鮮協会発行(抄録)	1922年
04	『四大徳巡講誌』	小林源六編 朝鮮仏教団発行(抄録)	1929年
05	『朝鮮仏教大会紀要』	佐々木浄鏡編 朝鮮仏教団発行	1930年
06	『朝鮮』第237号	朝鮮総督府(抄録)	1935年
07	『朝鮮』第239号(朝鮮宗教特集号)	朝鮮総督府(抄録)	1935年
08	『朝鮮』第249号	朝鮮総督府(抄録)	1936年
09	『心田開発に関する講演集』	朝鮮総督府中枢院(抄録)	1936年
10	『国民精神総動員運動と心田開発』	梁村奇智城編(抄録)	1939年
11	『日本精神と仏教』	佐々木浄鏡編 朝鮮仏教協会(抄録)	1939年
<b>(第5巻) 真宗大谷派の布教動向</b>			
01	『釜山と東本願寺』	河島研習著	1926年
02	『朝鮮開教五十誌』	大谷派本願寺朝鮮開教監督部編	1927年
03	『南山本願寺小史』	大谷派本願寺京城別院南山本願寺編	1931年
04	『覚醒』(雑誌)各号から	京城南山本願寺→大谷派朝鮮開教団発行	1927~37年
05	『向上会館設立趣意書』		1921年
<b>(第6巻) 日蓮宗の布教動向</b>			
01	『岡本柳之助論策』	岡本柳之助著	1898年
02	『日蓮教と朝鮮』	渋谷文英著	1919年
03	『日韓合邦と日蓮聖人』	清水梁山述・田村玄詳記 唯一仏教団発行	1910年
04	『日鮮関係と日蓮上人』	日蓮宗開教司監本部編	1920年
05	『鮮人教化と仏教』	井村日成著(横山惠正編『社会教化の指針』)	1927年
<b>(第7巻) 諸宗派の布教動向(曹洞宗・浄土宗・本願寺派・真言宗)</b>			
01	『円宗六諦論』	武田範之著	1911年
02	『鰲海鉤玄』	武田範之著	1911年
03	『鮮満見聞記』	中根環堂著(抄録)	1936年
04	『浄土宗韓国開教誌』	廣安真隨著	1903年
05	『浄土宗開教要覧』	柴田玄鳳著(抄録)	1929年
06	『日清交戦 法の光』	佐々木惠璋編(抄録)	1894年
07	『明如上人日記抄』 後編 4、日清韓事件	本願寺室内部発行(抄録)	1927年
08	『明如上人遺文抄』29	朝鮮開教濫觴の記(抄録)	1935年
09	『龍谷週報』朝鮮布教関係記事	教誨雜誌社(抄録)	1909・1910年
10	『朝鮮に対する我仏教徒の責任』(本派本願寺臨時布教紀念施本第6種)	弓波瑞明著	1910年
11	『朝鮮の精神的方面に就て』	大谷尊由著(『大日本公演普及会々々報』)	1926年
12	『満鮮教会誌』	古義真言宗々務所編	1929年